

◆◆特集（鎌倉三日会提言2）◆◆

鎌倉三日会は8月24日、鎌倉市長に大倉幕府跡の保全に関する提言書を提出しました。提言本文・資料・松尾市長のコメントなど関連文書を集めて掲載します。

提言本文

鎌倉市長 松尾 崇様

2018年8月24日

会長 渋谷 哲男

大倉幕府地解明に向けたタスクフォース組成の提言 (公民協働・全国連携による武家政権誕生地の確定)

(前提認識)

わが国の中世は、源頼朝が鎌倉に幕府を開き、「権威」(天皇)と「権力」(幕府)を分けた政治体制から始まった。この体制は近世も含め700年続き、我が国文化の基盤をなした。鎌倉の埋蔵文化財は、この中世と武家政権の開始を物語る超一級の物的資産で、それが地下にそっくり眠っているとされている。

(第一回提言)

1. 2016年7月12日に、「中世鎌倉再発見構想」を策定し、市長に提言した。

中世期は当市にとって原点。にもかかわらず未活用のフロンティアの状況。中世遺跡の活用にあたって、エコミュージアム概念を公民協働の下で援用ことによって、一段高い文化都市・鎌倉の実現を目指そう。

2. 鎌倉歴史文化交流館の開館もあって、エコミュージアムにとって重要な、コア施設が充実してきつつある。「中世鎌倉再発見構想」が一步進んだと評価している。また、来春開館の予定されている「鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム」にコア施設としても期待したい。

(第二回提言の背景)

1. より重要なサテライト博物館の充実という面で、危惧される事態が生じてきた。

雪ノ下地域の県埋蔵文化財包蔵地「官衙跡・鎌倉市重要遺跡」大倉幕府跡で、相当規模のマンション建設計画が予定されている。

2. 大倉幕府は、治承四年鎌倉に入った頼朝が居所で始めた政治の場であり、将に

武家政権発祥の地という象徴的な場所である。その象徴性は鎌倉はもとより我が国にとって極めて重要なレベルのものである。

3. この象徴的な場所において開発手続きが淡々と進められているが、取り返しのつかない不可逆的な事態の発生は許されず、事前に検討・議論・努力を十分に行うことが求められる。
4. 手続き上、鎌倉市教育委員会文化財課による開発業者への指導が条件となっており、先の市議会で当局は「『大倉幕府』の跡が含まれている可能性が高く、重要な遺跡であると認識している」「事業者及び調査組織に、未調査部分も含め、十分に調査を行うよう指導する」「学芸員が発掘状況を見て、県、文化庁へ報告する、また文化財専門委員などの有識者へ報告し、歴史的価値の判断を仰いでいく」「重要な発見があったら、その保存について県、文化庁と相談・協議していく」と答弁している。
5. 答弁通りの対応が誠実に実行されることを望むが、本件においてこれでも臨床的なレベルに留まっていると考えている。この事案を契機にして、幕府誕生地の確定へ繋げる道筋を明らかにする基本的な対応が必要だと考えるからである。

(第二回提言)

市長がリーダーシップを発揮して、公民協働・全国連携による大倉幕府地解明タスクフォースを組成し、知恵を結集した戦略展開により、幕府誕生地の確定を図るべきである。

1. 今回の事案は、御谷騒動や三大緑地問題をも凌ぐ重要問題である。これらの解決で市長および民、双方が果たした役割が極めて大きく、一部で鎌倉方式と言われる。
2. 鎌倉が古都保存法発祥の地と呼ばれるのは、著名な市民や三日会などの民が動いたこと、それに加えて、鎌倉市長が京都・奈良の首長の元に出向き、合同で議員立法まで持ち込んだ、このことを指しているからだと理解している。
3. 三大緑地問題も市民の粘り強い運動に加えて、市長が活用できる法制度を研究する指示を与え、それぞれに適用できる方策を採用したからだと理解している。
4. 今回の事案の視座を、大倉幕府誕生地の確定という基本的対応まで広げるべきであり、それに向けて現代版（協働）鎌倉方式の展開を図る必要がある。
5. 具体的には縦割り組織の壁を越え、民や学会・大学・国県などの知恵を結集するタスクフォースを組成し、戦略的に活動することが重要である。
6. このような多彩で多重なタスクフォースを組成できる存在は市長をおいてない。市長の決断と行動こそが、当事案を前向きな解決に導く道である。

(市長の決意を示す具体的な行動)

まずは、市長の音頭の下、大倉幕府跡の現在置かれた状況・歴史的象徴性・位置確定の意義・その後のあり方について学び合い・語り合う、中世鎌倉再発見集会を行政と市民が協働して早期に開くべきである

1. 鎌倉三日会は総力を挙げて、大倉幕府地解明タスクフォースの組成・旗揚げと大倉幕府地確定に向けた活動に協力する所存である。市長の決断に期待したい。
2. 今回の提言が実現すれば、鎌倉三日会の提言「公民協働による中世鎌倉の再発見構想」は飛躍的に実現に向けた環境が整うことになる。鎌倉三日会は市や他の市民団体と協力しながら、鋭意実現努力を図っていく。



松尾市長に提言書を手渡す渋谷三日会会長 (2018.08.24)

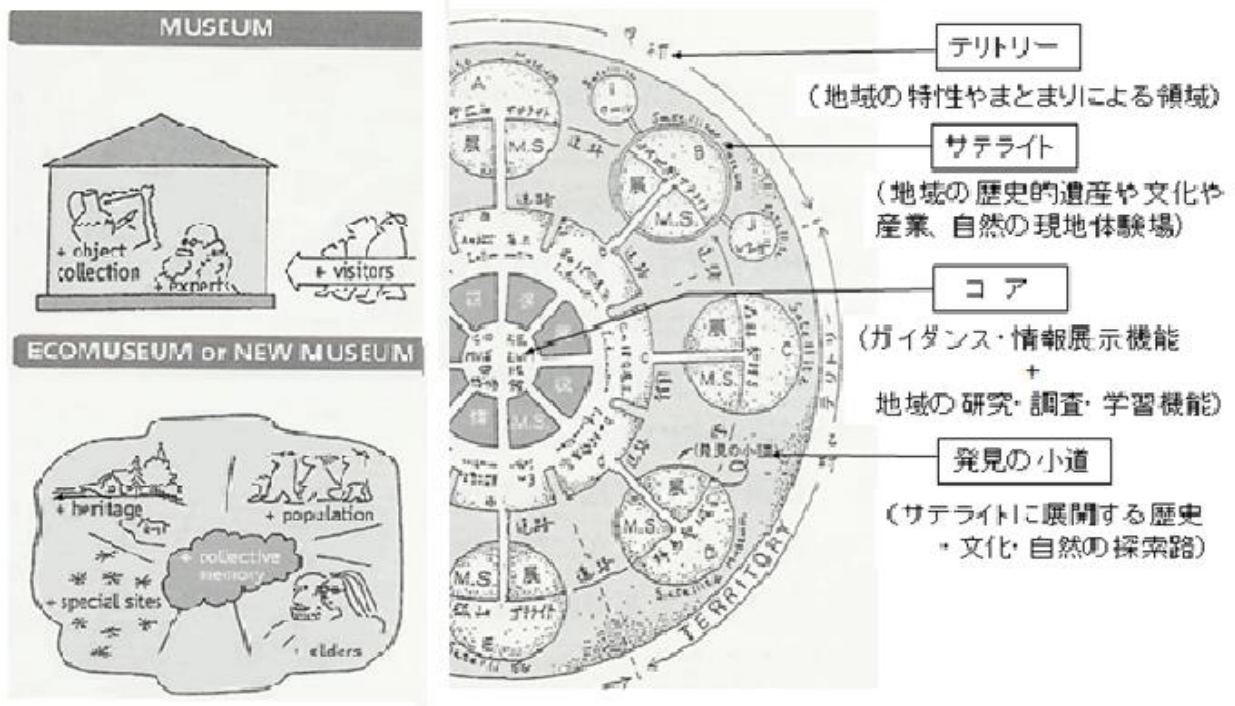


提言内容を説明する三日会理事 (みぎから2人目が山崎一真さん)

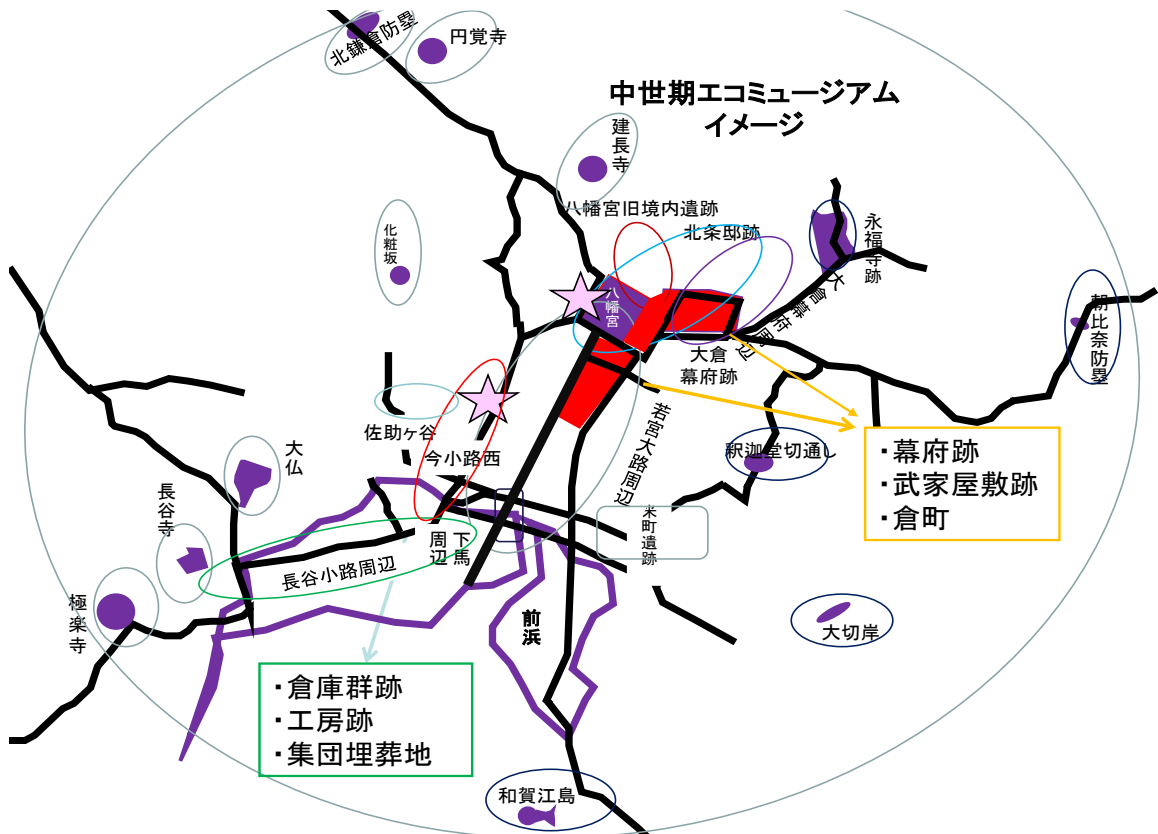
提言資料

第二回提言の説明資料

1 エコミュージアムについて



2 鎌倉中世期エコミュージムのイメージ



主婦もタスキがけ

鶴岡八 幡宮裏 宅地造成の反対運動

鎌倉の鶴岡八 幡宮裏山二十五坊跡「付近の山切りくずし反対運動は、町々るみで阻止に立ちあがり、鎌倉の歴史と自然を守る」ため、二十五日午後から鎌倉駅前で見物女性や主婦たちがタスキがけで反対署名を市民や乗降客によびかけ、協力を訴えていた。

この二十五坊 付近の山を切りくずして宅地造成し分譲しようとしているため地元民や鎌倉の自然を守る会 三日



駅前で見物を集めるタスキがけの主婦たち

御谷照光会、頼朝報恩会、材木座婦人会が反対して多くの署名を集め、許可しないよう県当局や

署名運動を進める昭和39年暮れの記事

文化財、風致地区守れ

手を結んだ古都三市

山本鎌倉市長が呼びかけ

鎌倉・京都・奈良

40.1.27 (木)



山本鎌倉市長

日本の文化財と風致の保護は、国家の発展に不可欠な要素であり、その重要性はますます高まっています。古都三市（鎌倉、京都、奈良）は、それぞれ独自の歴史と文化を有し、その保護と継承は、我々の責務です。このため、三市は手を結んで、文化財と風致地区の共同保護を推進し、後世に伝えるべき遺産を守ります。山本鎌倉市長の呼びかけに、京都府知事、奈良県知事も賛同し、三市は共同声明を発表しました。この声明は、文化財と風致地区の保護に関する具体的な措置を盛り込んでおり、各自治体の関係機関と連携して実施される予定です。我々市民も、この取り組みに協力し、古都の魅力を未来に伝えることに努めたいと思います。

政府へ立法措置働き

昭和40年1月27日

山本市長は、文化財と風致地区の保護を目的とした立法措置を政府に働きかけ、その実現を強く要望しています。また、三市は、文化財と風致地区の保護に関する調査と研究を進め、その成果を政府に提供し、立法措置の推進に貢献する予定です。我々市民も、この取り組みに協力し、古都の魅力を未来に伝えることに努めたいと思います。

昭和40年1月27日の記事

1 エコミュージアムについて

(概念)

エコミュージアムという考え方は、フランスの博物館運動から起こったもので、フランス語では「エコミュゼ」と呼ばれて、自然生態だけではなくて、社会生態も入っている。

提唱者であるジョルジュ・アンリ・リビエールは、エコミュージアムを『地域社会の人々の生活と、その自然環境・社会環境の発展過程を史的に探求し、自然遺産および文化遺産を現地において保存し、育成し、展示することを通して当該地域社会の発展に寄与することを目的とする博物館である』と説明している。そのため、エコミュージアムは生活環境や住民生活の研究、また、それらの保護センター、さらに、地域の発展に寄与する人材の養成などの機能を必要とするとされている。

(伝統的博物館との相違)

従来の博物館は、博物館という建物のなかに、収集品やサンプルを保存・展示し、学芸員という専門家が説明して、来訪者が拝聴する、という仕組みである。それに対して、エコミュージアムは建物ではなく、あるテリトリーのなかで、そこにある歴史文化遺産や自然を体感し、その地域の住民とくに年長者の方の記憶に基づく語りなどによって、来訪者の人たちが理解を深める、という仕組みである。

つまり、伝統的博物館の「国民の教育、学術および文化の発展に寄与」（日本の博物館法）という目的に対して、エコミュージアムは「当該地域社会の発展に寄与」を目的としている。また、伝統的博物館は資料の収集と展示を必要とするが、エコミュージアムは現地保存型であるため保存・公開と体験が重要である。さらに、伝統的博物館は設置者によって管理運営がなされるが、エコミュージアムは設置者と住民とで管理運営がおこなわれる。

(構造)

エコミュージアムは、テリトリー、コア、サテライト、発見の小道を基本要素としている。

Aテリトリー（境界領域）

歴史や文化、自然や植生などから見て、際立った特性を持つ空間領域のことである。この空間領域の広がりの中に、多くの人たちが行ってみたい、体験してみたいと思うような、複数の現地体験場をもつことが必要条件である。

Bコア（コア博物館）

地域全体の歴史や文化遺産の情報展示機能と研究・学習機能を持つ博物館である。来訪者はコアを訪れるだけで、この地域全体の歴史・文化などが把握でき、そこを起点として次なる行動を起こすための情報収集と学習ができる。そのためには継続的に調査研究を行い、それに

基づいた最新の情報を提供する必要がある。

C サテライト（サテライト博物館）

地域の歴史的遺産や文化、産業、自然の現地体験場がサテライト博物館である。コアで研究・学習した内容が現地の環境、雰囲気、人との関わり合いのなかで、内的な知識に昇華し、それによって学習効果へと結びつく。そのサテライトを象徴するサテライト博物館でも、実演や情報検索によって来訪者自らが研究・学習を行なえることが重要で、そのためには来訪者の好奇心を満たせるような創意工夫が常時必要である。

D 発見の小道

サテライトに展開する歴史・文化・自然の探索路である。ガイドによる案内に加えて、探索の過程で興味、関心、疑問をもった事柄にタイムリーに答えることができれば、探索はより充実したものになる。アップ・トゥ・デートした情報をガイドに適時提供し、それを分かりやすく説明するように定期的な教育訓練が必要である。

2 鎌倉中世期エコミュージアムのイメージ

（イメージ提供の狙い）

鎌倉中世期エコミュージアムの意義を正しく理解し、また、進むべき方向も明確にするためには、そのイメージを即地的に描く必要がある。

ただし、中世期鎌倉の多くは地下に眠っている。そのため歴史学者や考古学者の協力が不可欠である。さらに現に地上に多数の中世鎌倉の風景がある。これらを融合した総合的な考察に立ってイメージを描くことが重要である。

現段階は、エコミュージアム概念援用の可能性を示すことにある。このような理解にたって、地域デザインを専門とする提案者がこれまでの研究成果を収集整理した上でイメージを示した。

（イメージ形成の方法）

鎌倉市は毎年埋蔵文化財発掘調査報告書を公表している。ここに掲げられている発掘地点を地図にプロットし、かつ、そこで考察された土地利用分類（武家屋敷跡、倉庫跡、工房跡、集団埋葬地など）で色分けをした。

よみがえる中世3（平凡社）、中世の風景を読む2（新人物往来社）、中世都市鎌倉の風景（吉川弘文館）など多数の書物に記載された図表などをもとに、往時の街道や主要建造物などを地図にプロットした。

上記の情報にもとづき鎌倉中世期エコミュージアムのイメージを形成した。

（鎌倉中世期エコミュージアムの構造）

A テリトリー

頼朝が鎌倉に入って以降、約150年の歳月をかけて構築された、都市鎌倉の範囲がこのテリトリーに該当する。仮説的に、北端は北鎌倉防塁、東端は朝夷奈防塁、南端は和歌江島、西端は極楽寺とした。将来的には、東は六浦、西は片瀬辺りまでを含める必要がある。

ここで特に注意しておきたいことは、当時テリトリーが海の東西軸（後述のD発見の小道に記載）によって生活界と異界に分けられていたとされていることである。

Bコア

テリトリー全体の状況を説明するガイダンス機能と常時考古学的研究・学習などを行うコア博物館としては、昨年オープンした「鎌倉歴史文化交流館」を見立てた。また、来年オープン予定の「鎌倉文華館 鶴岡ミュージアム」もガイダンス機能を謳っており、ここも民間系のコア博物館と見立てたい。

Cサテライト、

サテライト博物館候補は枚挙にいとまがない。鶴岡八幡宮と若宮大路はもとより鎌倉幕府跡（大倉・若宮大路・宇津宮）、政所跡、執権屋敷跡、武家屋敷跡、永福寺跡、建長寺・円覚寺・長谷寺・極楽寺、大仏、大切岸、釈迦堂切通、和賀江嶋、倉庫群跡、工房跡、集団埋葬地など、街中がサテライト博物館の様相である。これらの位置を確定し、どのように見せるか。力量が問われるが、特に大倉幕府跡は鎌倉の出発地であることから価値は高く、早期の対応が求められる。

D発見の小道

山側と海側を走る東西の2本の道（朝夷奈—北鎌倉、名越—稲村ヶ崎）、これらを結ぶ南北3本の道（小町大路、若宮大路、今大路）という鎌倉時代に造られた基本骨格は、今も維持されている。

この基本骨格を前提に周囲が市街化し、その中に細街路が設けられた。この細街路を活用しつつ修景を図ることによって、情緒ある道行を通してサテライトに至る発見の小道づくりを目指したい。

（鎌倉中世期エコミュージアムから見えたこと）

- ・テリトリーは半径2Km程度で極めてコンパクトである（徒歩で1時間圏）
- ・コア博物館の位置はテリトリーのほぼ真ん中にあり、立地条件に優れている
- ・鶴岡八幡宮・幕府は生活界の中心であり、鎌倉中世期エコミュージアムの将に核心に位置している
- ・特に大倉幕府跡は、最初の政治の場であるとともに、頼朝の生活の場つまり御所でもあった。鎌倉エコミュージアムの核心中の核心である。
- ・異界から生活界を護るために多くの神社仏閣が設けられたが、それらが適度に配置されている。また、生活から発生した穢れに通ずるもの（廃棄物や埋葬物など）が異界に遺跡として残されている。
- ・地下に眠る埋蔵文化財と地上に存在する多数の中世期の風景は、素晴らしい鎌倉中世期エコ

ミュージアムを形成するに足る十分なポテンシャルを有している

3 古都保存法成立に係る新聞記事

(御谷騒動を伝える新聞記事)

昭和39年8～9月頃の新聞に、「・・・地元民や鎌倉の自然を守る会、三日会、御谷照光会、頼朝報恩会、材木座婦人会が反対して多くの署名を集め、・・・」という記事が掲載された。ここで言う「鎌倉の自然を守る会」とは、鎌倉住まいの作家・画家・宗教家などの著名人と経済人中心の三日会で結成された団体である。

鎌倉三日会は会それ自体として、また、「鎌倉の自然を守る会」を通して、深くこの運動にコミットすることによって、古都を保存するという社会貢献に一役買ったのである。

(市長が動いたことを伝える新聞記事)

昭和40年1月27日の新聞に、「文化財、風致地区守れ」「手を結んだ古都三市(鎌倉・京都・奈良)」「山本(鎌倉)市長が呼びかけ」「政府へ立法措置働きかける」という記事が記載された。

公民協働・全国連携に向けた市長のリーダーシップ、これが社会的紛争を解決に導くという好例を、かつての鎌倉市長が示している。

市長コメント

8月24日大倉幕府跡のマンション建設に関する提言を受理した松尾市長は、鎌倉三日会に対して口頭でコメントを伝えました。市長発言要旨を記します。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

(大倉幕府跡でのマンション建設計画に関する提言について)

(市長) 鎌倉三日会のみなさんの思いが、文面でもよく理解できます。ここで私の方からみなさんに知っておいていただきたいことが一点ございます。現状では教育長が権限を持っていますが、まちづくりと文化財とは一体で考えていくべきことだという思いから、文化財行政を市長部局に移すことを市議会に持ちかけました。ところが議会の反対で引っ込めざるを得ないことになりました。

中世鎌倉再発見の意義というのは、私たちとしても非常に重要だという意味で、発掘

調査については、教育長にもつねに慎重にやるべきだと申し入れています。教育長もこれを受けて六月の議会答弁につながっているというところがあります。

より慎重にやっていくべきだという姿勢については、変わらずにやっていきたいと思っているところです。文化財行政のトップである教育長とは、うまく連携しながらやっていく必要があるので、どのように整理していくかは、少し考えさせていただきたいと思っています。ただ今まで教育委員会がやっていることについて、市長部局に移すというアレルギーは非常に強いと感じています。

(山崎三日会理事) われわれとしては市長も教育長もタスクフォースに入っていただきたいと考えています。そういう判断でお願いしたいところです。何と言っても選挙で選ばれた市長の存在が大きいと考えています。教育長の権限を取り上げるということではなく、一緒にやりましょうというのが、提言の重要なファクターです。ぜひ実現化をはかってもらいたいところです。教育委員会・市長・三日会幹部とで話し合う機会をぜひ設けてほしいと思います。